



①②ベルリン中央駅まで鉄道で移動③④⑤やり投げや車いすフェンシングなどのパラスポーツ、空手などを体験⑥⑦鉱山やサッカースタジアムを見学⑧未来のアスリートとゲームで交流⑨コトブス市長に面会⑩東京2020パラリンピックの銀メダル⑪ベルリンの壁で歴史を学ぶ⑫車いすで使いやすい横断用の押しボタンや専用エレベーター⑬ホストファミリーとお別れパーティー

▼コトブス市で出会った著名なパラリンピアン(中央)と一緒に記念撮影



ドイツで学ぶ 共生社会

田川市中学生海外派遣事業

本市が目指す共生社会の実現。その担い手を育てるため共生社会の先進国であるドイツに中学生12人を派遣しました。生徒たちの学びと成長の軌跡を写真とともに紹介します。

未来の社会を変えていくために

本市は、東京2020パラリンピック競技大会の事前キャンプの誘致を機に、国籍の違いや障がいの有無、LGBTQなどさまざまな人が、互いに人権を尊重し、多様性を認め合いながら、自分らしく生きる事ができる社会の実現を目指しています。市政の要である「田川市第6次総合計画」では、重点プロジェクトのひとつとして「共生社会の実現」を掲げ、パラスポーツの振興や心のバリアフリーの浸透など、さまざまな施策に力を入れています。

共生社会の実現を目指すということは、未来の社会を変えていくということ。そのためには、今を支える大人たちが責任をもって取り組むとともに、未来を担う子どもたちへ、社会の変革を後押しし、引き継いでいく役割を託さなければなりません。

12人の中学生をドイツへ

「田川市中学生海外派遣事業」は、国際感覚や多様性に対する感覚を身につけた共生社会実現の担い手を育成することを目的とした新事業です。さまざまなものを感じて吸収することができるとして、2年生という時期に、世界的な共生社会の先進地「ドイツ」で学んでもらうため、市内在住の中学2年生を対象に希望者を募集。厳正な

選考で選ばれた12人がドイツに赴きました。

社会や人の温かさに学ぶ

派遣期間は11月3日～13日で、生徒たちは約9日間にわたってドイツに滞在。主にコトブス市、エスリンゲン市を巡って市長を表敬訪問したほか、施設見学や学校訪問、障がい者アスリートとの交流、パラスポーツの体験など多彩なプログラムを通して歴史や文化、共生社会の在り方を学びました。特に、パラスポーツの体験から人間の可能性や努力と鍛錬の重要性を感じたこと、施設だけではなく街中の細部から人々の行動までバリアフリーが浸透しており、共生社会の先進性を体感したことに、深く感銘を受けていました。

また、ホームステイも生活や食文化、コミュニケーションなどを学ぶ重要なプログラム。ホストファミリーと対面した生徒たちは始めこそ緊張していましたが、事前研修で学んだドイツ語や、中学生ならではの勢いと独自のジェスチャーなどを駆使して積極的に交流。一緒に食事したりゲームや観光を楽しんだりしながら、笑顔の絶えない4日間を過ごしました。本日の家族のように接してくれるホストファミリーの温かさに感動し、最終日のお別れパーティーでは、互いに涙を浮かべながら再会を約束しました。



ホストファミリー

11の家族がホストファミリーとして協力。どの家族も温かくきめ細やかにサポートしてくれて、生徒たちにとって忘れがたい経験となりました。帰国後もSNSで連絡を取り合うなど、交流が続いています。

ドイツの家族に
ダンケシェーン！



事前研修

ドイツや共生社会に関する基礎情報、歴史・地理・社会・ドイツ語などを事前に学習。また、異文化理解やコミュニケーションの実践としてドイツのスポーツ指導者と一緒にパラスポーツ(ポッチャ・卓球バレー)を体験しました。

事前研修で
準備OK!

※(公財)日本スポーツ協会日本スポーツ少年団主催の「日独スポーツ少年団指導者交流」の一環で本市に訪。福岡県では田川市スポーツ協会が受け入れており、同協会の協力により中学生との交流を実施したもの。



感想文を発表した①溝口さよさん②角銅悠生さん、保護者の③堤田一郎さん④田原大輔さん。報告会には保護者や市議会議員など約40人が参加。立派に成長した生徒たちに惜しめない拍手を送りました。

Lasst uns von der Welt lernen!



世界から学んでみよう!

中学生の声

私たちの思いを一冊の報告資料にまとめました。その一部を紹介します。



印象深かったことなどを説明しました。さらに、市に取り組んでほしいこととして「車いすに配慮した歩道の整備」「スロープの増設」「障がい者への理解を深める授業の実施」なども提言。これを受け、村上市長は「多くの学びを持ち帰っていただき、ありがとうございました。ご提言は、今後市で議論していきたい。これからも興味を持って田川市を見続けてください」と話しました。

「視野が広がり、考え方が変わった」「差別や偏見をなくすために自ら動きたい」「この経験をいかして、障がいがある人や外国籍の人と積極的に交流したい」「留学して広く世界を知りたい」など、共生社会の実現に向けたさまざまな思いを持った生徒たちは現在、それぞれの中学校での報告会をおして学びを伝え続けています。

市では、今回の派遣が一過性のものでなく、共生社会の実現を後押しする取り組みとなるよう、派遣修了者を登録する団体を組織するなど、市主催のプラススポーツ体験会をはじめ、共生社会に関する事業に積極的にボランティアとして参加してもらえ体制づくりに取り組む予定です。

共生社会実現への道のりは、これから続きます。市民のみならずのご理解とご協力、そして学びや体験の機会への積極的な参加をよろしくお願いいたします。

もっと知りたい。踏み出したい。旅路の先に、次の一歩を。

事後報告会を開催
12月16日・田川市役所



価値観を変えたい

嘉穂高附属

ドイツで学ぶことで、共生社会に興味を持つようになりました。移動中のバスの中、障がいがある人たちの団体が楽しく



話をしていました。誰ひとり迷惑することなく周りの人もみんな笑顔なのは、誰もが同じ人間だということ価値観を持っているから。私もそうなりた

溝口 さよさん と思いました。

百間は一見にしかず

田川西

パラスポーツの強化選手と言葉の壁を越えて楽しい時間を過ごしました。また、実際に体験することで、選手の大変な練習量を知りました。テレビや本でしか知ら



なかつたドイツ。その文化・建物・習慣など、すべてが日本と違い、心を動かされました。まさに百間は一見にしかず。

田原 向晟さん

自分の変化を感じる

猪位金

ドイツ派遣は、将来海外で働きたい私にとって大きなチャンス。たくさん学んで帰国した今、自分に変化を感じます。



不安だった言葉の壁。今は言語が違っても、色々な方法でコミュニケーションが取れるのだと、考え方が変わりました。この貴重な経験を将来にいか

大谷 乙華さん していきたいです。

嘘みたいな11日間

田川西

ドイツで過ごした日々は、本当に楽しくて嘘みたいな出来事の連続。帰国後に喪失感を覚えるほどでした。ドイツでは出



会う人すべてが温かくて優しく、とても過ごしやすかったです。ホストファミリーとは今も連絡を続けています。僕はまたいずれ、必ずドイツ

角銅 悠生さん に行きます。

もっとたくさんの国へ

嘉穂高附属

色々な初めての経験ができて、とても楽しかったです。お世話になったホストファミリーにはまた会いたい気持ちで



いっぱい。ドイツで学んだことで「もっとたくさんの国に行きたい」「違う言語で話してみたい」「経験を積んで視野を広げたい」という気持ちが大き

原田 凜乙さん くなりました。

田川市に貢献したい

育徳館

ドイツでは、どこの施設でもバリアフリーなどに取り組み、みんなが安心して暮らせる共生社会を目指しています。ま



た、コト布斯市の人と話したときも、共生社会を目指したいという思いの強さを実感。今回学んだことを忘れず、将来は田川市に貢献できる人材を目指

田原 乃衣さん したいです。

自分づくりにいかす

田川東

帰国したときに感じた違和感。きっとドイツに慣れ過ぎてしまったからでしょう。ホストファミリーのみなさんをはじめ



め、ドイツの人は本当に友好的で話しやすかったです。色々なところに連れて行ってもらい、体験したり学んだりしたことを、今後の自分づくりに

鳥丸 優雅さん かけたいです。

歴史にワクワク

田川東

炭坑で栄えたという田川市との共通点があるコト布斯。戦争の被害を受けず、古い建物が残っているエスリンゲン。歴史



史・文化の違いや共通点を知り、ワクワクしました。ホストファミリーが各部屋に日本語で書いた案内を貼って過ごしやすいしてくれたことが、一

塚田 胡桃さん 番嬉しかったです。

障がいなんて関係ない

田川西

ドイツで学んだ特別なこと。それは「障がいなんて関係ない。みんなできる」ということ。そして、どんな人でも大切に



し、人種などに関係なく接するということ。共生社会実現のカギだということです。私は留学をすることが夢です。その時は

きっとドイツに行くと思います。

勇気を出して良かった

田川東

文化も伝統も風景も、すべてが日本と違うドイツ。未だに夢だったのではないかなと思うほど幸せな時間でした。これを機



に、もっと色々な国を巡り、視野を世界に広げられるようになりました。勇気を出して応募し、異国の文化に触れることができて本当に

良かったです。

自分の変化が大切

田川西

車いすバスケットボール、フェンシング、やり投げ、競輪の体験はとても印象深かったです。言葉が通じなくても、障



いがあっても、スポーツは楽しくできる。実際に体験して衝撃を受けました。共生社会の実現には、自分が変わっていくことが大切だということに気づく

ことができました。

人と触れ合い人に学び

田川西

ドイツで過ごした日々は、人と触れ合う機会が多く、言葉は通じなくても仲良くなれるということを実感。視覚障がい者



でも観戦を楽しめるサッカースタジアムの取り組みやコト布斯市の共生社会の取り組みなども学びました。この経験を勉強

にいかし、またドイツ 城戸樹莉亜さん に行きたいです。